各位

盛夏の候、平素は児童館事業にご理解ご協力誠にありがとうございます。

コロナ禍で迎える二回目の夏休み、有り余るほどの子ども達のエネルギーは蓄電して他に使えないだろうか(笑)と思うぐらいの放出量です。

このエネルギーを少しでも地域の方にお届けできないかと考えたのが、「地域にやさしい言葉を届けようプロジェクト」です。

今年度は児童館二〇周年でもありますので、子ども達は皆さんをお迎えしてカフェやお店屋さんをしたいと楽しみにしていましたが、コロナ禍では開催することが難しいので、それに代わる交流として考えました。

自分達の住んでいる地域の良さや、どんな地域になると良いか等の意見を出し合う、ワークショップをしました。

そこで、地域の人と出会うと挨拶してくれたり、やさしい言葉をかけてもらうことが嬉しいとの意見が沢山あり、やはり人と人の関りが大切であり、うれしい気持ちになるのだと子ども達は気づき、地域の方に「言葉にして届ける」という取り組みに発展しました。

又、民生児童委員さんのご協力で、子ども達と一緒に会議を実施しました。自分達の思いを大人に伝え、一緒に関わってもらいたいと協力をお願いする機会でしたが、大人との初めての会議、ドキドキすると緊張をしていた子ども達ですが、当日は皆さんの温かい見守りの中で自信を持って発表をすることが出来、ここでも新しい出会いと交流が出来ま

児童館前に子ども達からの

「やさしくなる言葉」が掲示されています。

ぜひ見てあげてください。

又、やさしい気持ち・あったかい気持ち

嬉しい気持ちになる川柳を募集中。

嵯峨野中にやさしい言葉が広がりますように・・・。

令和三年　九月号のおたよりに添えて

社会福祉法人　積慶園

京都市嵯峨野児童館　　館長　飯吉昌子